

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

Shiga Green Purchasing Network

shiga GPN news

滋賀グリーン購入ネットワークニュース
第3号 2002年3月



取	り	組	み
事	例	紹	介

株式会社 ヒサダ昭栄堂

遠藤 徹



思い起こせば環境問題に関心を持って今年で8年目になります。環境という言葉は当然理解していましたが、知れば知るほど奥深いものだなあと感じています。

私の勤める会社は、文房具を販売しています。当然、滋賀県庁も長年の大切なお客様です。その県庁から「今後、環境に配慮した物品購入を積極的に取り入れる方向です。」と言われた時、これはこれからのニュービジネスになると思いました。

思うのは簡単ですが、さて実際、再生紙などを使用している商品など当時はどこにもなく、まず考えたのは、商品としての品質と価格の問題でした。当時は一般的に環境問題に対して今ほど関心がなく、再生紙などを使用して商品を製造しても、どれだけ売れるのか分からず、リスクも大きく、不安な面がありました。

とりあえず私にできることといえば、メーカーと一緒に県庁を訪問して、環境に対する考え方・取り組み方、また、今となってはあたりまえのISOのことなどを、色々とか聞かせていただくことでした。そうこうしているうちに、なんと再生紙30%の紙ファイルが出来てきました。最初、商品を手で触ってみると若干ざらついた感じがしましたが、商品的には素晴らしいものでした。

一度商品ができると、次々とのメーカーからも色々な商品が発表されました。今思えばあの頃が一番楽しい時でした。しかし問題は、今後どのように環境問題に取り組んでいくかです。

今では、リサイクル商品があたりまえのようになり、実に素晴らしいことですが、究極の考え方は、まずゴミを出さない(出にくい)循環型環境にしていくことだと私は思います。

滋賀GPNにも、今後は幼稚園や小学校の子どもたちにも環境の大切さを知ってもらえるような、今以上の活動を期待しています。



エコ情報室

「地球人」のすすめ ～家族で取り組むISO～

「地球環境」を守るために、あなたは何かしていますか？

このたび、環境家計簿にISO14001の環境マネジメントシステムの考え方を取り入れたプログラム「『地球人』のすすめ～家族で取り組むISO～」が、水質汚濁や地球規模の環境問題に対応するために、滋賀県により作成されました。

この「『地球人』のすすめ」はA4版25ページ、プログラムの説明、現況の点検表、環境行動チェックシートなどで構成され、イラスト入りでわかりやすい内容です。

家族で「私たち地球人宣言書」にサインし、家族の行動が環境にどの程度の負荷を与えているか家族みんなで確認、削減目標を立てて実践し、結果を評価できるプログラム。

記録報告書に必要事項を記入して、県庁エコライフ推進課「地球人」のすすめ係に送ると、審査のうえ「地球人」に認証してもらえます。

大切なのは私たちの生活を、環境に配慮し資源を循環させるライフスタイル(エコライフ)に変えていくこと。地球を愛し地球の未来を考える、本物の「地球人」。誰もが目指したいものですね。【お問い合わせ】県庁エコライフ推進課「地球人」のすすめ係 TEL:077-528-3492

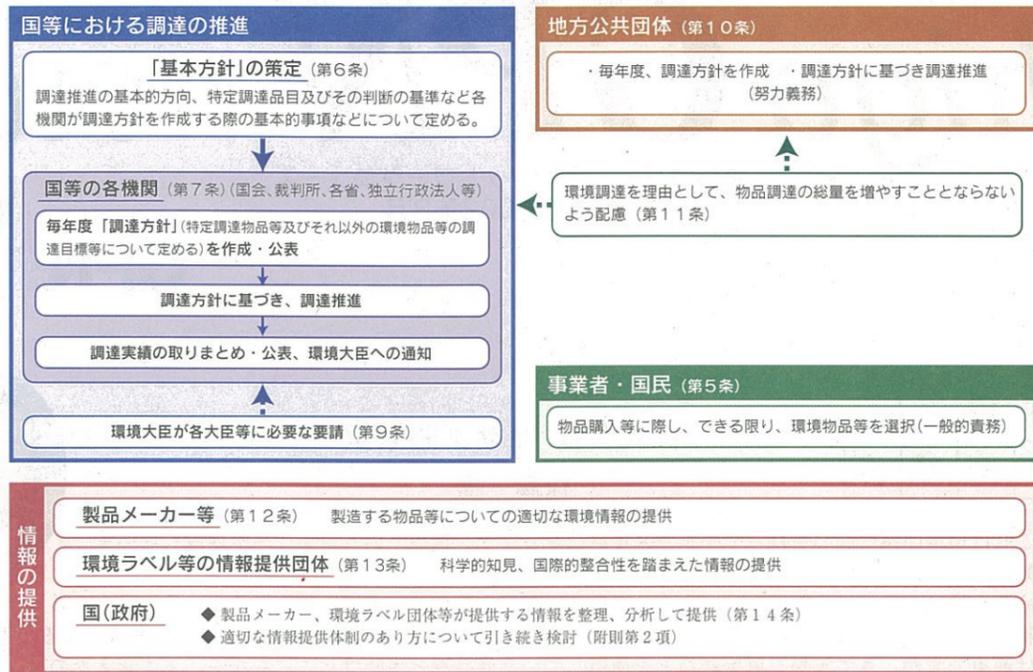
Contents

■取り組み事例紹介・『地球人』のすすめ	1	■[報告]機密書類処理方法研究会「第2回研修会」	6
■グリーン購入法と滋賀県の動き	2	■リレートーク「だから今、グリーン購入！」	7
■滋賀GPN研究会2002年度への思い	3	■活動報告・活動予定	7
■グリーン購入フォーラムを終えて	4	■滋賀エコじまん！「環境こだわり農産物」	8
■[報告]自治体のグリーン購入研究会「第4回研修会」	5	■会員内訳・新規入会会員	8
■見つける・広がる環境サイト エコどこナビ	5	■事務局からのお知らせ	8

■グリーン購入法と滋賀県の動き

「国等による環境物品等の調達に関する法律(グリーン購入法)」が、平成13年4月1日より施行されました。これは、国等の公的部門が環境負荷の少ない物品、サービス等の調達を推進すること、環境物品等に関する情報提供等を実施することにより、環境負荷の少ない持続可能な社会の構築を図ることを目的としています。

グリーン購入法の仕組み



1) 国等によるグリーン購入の推進

国および独立行政法人等は、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(基本方針)」に基づき、毎年度「環境物品等の調達の推進を図るための方針(調達方針)」を作成・公表し、これに基づいて調達を実施し、実績の概要を公表、環境大臣へ通知することが義務づけられています。

この基本方針において、当初は14分野101品目の特定調達品目について、再生材料の使用率、エネルギーの消費効率などにより判断基準が定められていましたが、平成14年2月15日の閣議決定で、特定調達品目は50品目追加、整理され150品目に変更されました。(添付資料「特定調達品目の追加等の一覧」参照。)

判断基準は、環境省ホームページでご覧になれます。<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-low/> (滋賀GPNホームページ「グリーン購入とは」からもリンクされています。)

また、グリーン購入ネットワーク(GPN)では環境省の委託を受け、ホームページ上で「グリーン購入法特定調達物品情報提供システム」の公開を行っています。このシステムは特定調達品目について、判断基準に適合すると事業者自らが判断した物品が登録されており、その情報が検索できるようになっています。<http://gpn2.wnn.or.jp/law/>

2) 滋賀県におけるグリーン購入の推進

滋賀県では全国に先がけて、平成6年より「滋賀県環境にやさしい物品等の購入基本指針」を独自に定め「滋賀県機関で採用した環境対応製品推奨リスト」(3月15日現在186品目)に基づいての物品調達が、すべての県機関(警察署、県立学校を含む)でおこなわれ、環境こだわり県として早くからグリーン購入に取り組んでいます。

「県推奨リスト」の詳細はホームページでご覧になれます。<http://www.pref.shiga.jp/k/suito/ka00a008.html/> (今後の「県推奨リスト」の追加、変更については、滋賀GPNでもメルマガやホームページ上でお知らせしていく予定です。)

また、この取り組みを確実なものにするためにISO14001に基づく環境マネジメントシステム(EMS)の中に位置づけて実践し、グリーンオフィス滋賀(環境にやさしい県庁率先行動計画)の推進を掲げ、

1)グリーン購入の推進、2)省エネルギーの推進、3)省資源、4)リサイクルの推進・ゴミの減量化に努めています。

さらに、今後グリーン購入を県民や事業者とともにますます充実・発展させていくために、「滋賀県グリーン購入基本方針」が定められる予定です。

建設リサイクル法

また、平成12年5月31日に公布された「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)」は、資源の有効な利用や廃棄物の適正処理を図り、生活環境の保全や国民経済の健全な発展に寄与することを目的として制定されました。

すでに平成13年5月30日より解体業者の登録制度の規定が施行されており、全面施行となる平成14年5月30日からは、対象となる建設工事の事前届けや、特定建設資材(コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト・コンクリートの4品目)の分別解体や再資源化などが義務付けられます。

滋賀県では、「建設リサイクル法に基づく滋賀県の実施に関する指針」が定められました。(【お問い合わせ】県庁監理課技術管理室) TEL:077-528-4118

これによって建設という分野でも、より一層のグリーン購入の推進が期待されます。

滋賀GPN研究会 2002年度への思い

今年度立ち上がった滋賀GPN研究会。2002年度に向けて、さらに前向きな活動が期待されます。各研究会を取りまとめてくださっているリーダーの皆様へ、今の思いをうかがってみました。

「食のグリーン購入研究会」

株式会社たねや 総務部エコロジー推進課長 額田 隆義



早くから「食のグリーン購入」というアドバランを上げておきながら、研究会の活動として昨年は「企画会議」の開催のみに終わってしまったことを反省している。2002年度の研究会の活動には県内のエコファーマーの見学など基本的で分かりやすいところから始めていけたらと思っている。

一方では例えば、県内でもこれから動き出そうとしているバイオテクノロジーの問題など、環境面からの評価が十分に定まっていな分野もあり、食と環境の問題というのはあまりにも広大で奥の深い領域だと痛感している。食のグリーン購入のガイドラインを定めるという最終目標にたどり着くのは並大抵のことではないだろうが、まずは余り欲張らず、手の付けやすいところから着実に取り組みを進めていきたい。

今後は、会員の皆様からもご意見や、助言を得ながら、多くの方が参加していただける研究会にしていきたいと考えている。

「グリーン購入評価手法研究会」

関西日本電気株式会社 環境・工務センター主任 三好 君雄



滋賀グリーン購入ネットワークの中に「評価手法研究会」をつくり、活動をはじめた。「グリーン購入法」や「グリーン購入基本原則」等いろいろな立場で定められているグリーン購入に関する考え方を勉強しながら、滋賀県内へさらにグリーン購入を広める活動を展開していきたい。

会員の中にはグリーン購入への取り組みが進んでいる団体もたくさんあると思うが、これから本格的に始めたいと思って入会された団体もあるのではないだろうか。会員の皆様のご意見を取り入れながら、お互いが共通の話題で情報交換ができるようにわかりやすいグリーン購入ガイドをつくり、グリーン購入率(仮称)の実態調査から始めて、グリーン購入率が向上する活動が広がることにより、グリーン購入に対する関心をさらに高めていきたいと思う。

「機密書類処理方法研究会」

小林事務機株式会社 取締役室長 寺澤 清穂



平成13年度、機密書類処理方法研究会の事業として、北陸3県を中心に活躍されている、株式会社ジェスコの統括マネージャ別森敬一氏の話聞いた。株式会社ジェスコでは、セキュリティ機能を有する倉庫での保管業務。機密書類の出張機密処理作業、機密書類のリサイクル製品の販売までトータル処理されている話は大変参考になった。そして機密書類処理施設見学として、大津板紙株式会社を拝見した。機密書類、中でも行政よりの書類も大量にリサイクル処理をされているとのこと。県内でこのような会社があることは頼もしく思う。

滋賀県内で発生する機密書類の量は年間1500トンとも3000トンとも言われ、その大半が焼却処理されている。

「機密書類も大切な資源」機密書類処理方法研究会では、滋賀GPN会員の皆様に広く情報の提供をさせていただき地域ネットとして資源の有効活用を進めていきたい。

「自治体のグリーン購入研究会」

彦根市 市民生活部生活環境課主事 垣谷 美貴

滋賀GPNにおける「自治体の研究会」のリーダーとして、今年度(平成13年度)グリーン購入担当として携わることとなった私は、リーダーという立場に右往左往し、戸惑いながらもスタートすることとなった。グリーン購入を考える上で4つの研究会が立ち上げられ、滋賀GPNとしての今後の活動が期待される、そんな中、「リーダーとして何をすべきか」という自問に悩む余裕もなく、県出納局はじめ、滋賀GPN事務局の協力と指導のもと、研究会を開催するに至った。今年度は、「少しずつ、一歩ずつ」を基本に、自治体としてのグリーン購入啓発にむけ、自治体同士の中で現状や問題点を出し合った。そこには民間企業からの積極的な参加もあり、需要者(自治体)と供給者(企業)としての密接な関わりが求められていくことを知った。

今後もこの研究会を通して、県内50の市町村が(私も含む)「こうしてはられない!」という意識を一層高めていくことを願ってやまない。

グリーン購入フォーラムを終えて ～パネルディスカッションより～

2号でもお伝えしたグリーン購入フォーラム(2001年11月16日開催)第2部のパネルディスカッションはコーディネーターに土屋代表幹事、パネラーに各研究会のリーダーの皆様、第1部で基調講演をお願いしたフォルクハート・メッカー氏(ドイツ連邦環境庁環境保護課長)にもコメント者としてご参加いただきました。

額田氏からは、地域ネットワークとしての独自性を出したいところから琵琶湖→水、人間の生活における水の問題を入り口から考えるということで「食」の研究に行き着いた話。日本の食糧自給率の低さ、食糧輸入時にかかる無駄なエネルギー等による環境問題。食生活にまつわる排水やゴミ問題等のお話が出ました。一般家庭の台所ゴミの4割弱が食べ残しだという話も印象的でした。

三好氏からは滋賀GPN独自の評価手法のあり方として、「大小どんな団体でもそれを見ながらグリーン購入を進められる基準を作り、またその基準を元に、年々どれだけグリーン購入が進んだかの目安になるようなものを作っていく。そのためにアンケートなどで、会員の皆様の要望や情報を聞いていきたい」ということでした。

寺澤氏からは、その大半が焼却処理されている機密書類の、リサイクルについてのお話を伺いました。「機密を保持してリサイクルしてくれる業者があったとしても、大量の書類の保管・運搬方法、逆に少量の場合の持込方法、そして機密保持のセキュリティ等色々な問題がある中で、滋賀GPNでうまく情報交換しながら、これらの問題を克服し、最終的にこういう事業を安く確実にできないかを研究していきたい」とのことでした。

小菅氏からは、55の行政会員が事例発表やグループ討議などで情報交換している、自治体のグリーン購入研究会のお話を伺いました。「日本では一般市民の理解度はまだ低いので、企業の方々、一般市民、市民団体の皆さんとともに、グリーン購入を推進することに努め、例えば彦根市でも、現在33の市内会員団体を10年後には100にしたい」というお話も出ました。

また、メッカー氏からは、「お互いに共通した問題点を抱えている日本もドイツも、意見交換しながら協力し合って解決していこう。そういう前向きなプラスのグローバル化が望ましい」というコメントをいただきました。最後は土屋代表幹事からの「1月にEUが『第6次環境行動計画』を出したが、このタイトル『Our Future Our Choice』の通り、私たちが環境に優しい商品を買うということが、即、私たちの未来を開くことになる。皆さんの一層のご協力と努力とで、滋賀GPNとしてもさらに前進できればよいと思う。」という言葉で締めくくられました。



グリーン購入フォーラム参加者アンケート集計報告(項目抜粋)

アンケート回収数 38通(参加者110人・回収率35%)

■ 今後開催されるフォーラムに、どのような内容を期待されますか。

会 員	<ul style="list-style-type: none"> 消費者参加型 グリーン購入の基準 グリーン購入の評価手法について 企業で進めていくための問題点(コスト等)の解決に向けた取り組み。 県内のどの企業が環境対応製品を製造しているのか、商品について知りたい。 グリーン購入を促進する為の具体的な方策、体験例の紹介。
非 会 員	<ul style="list-style-type: none"> 一般消費者からのグリーン購入、身近なスーパー等の取り組みが良い。 もっと具体的に、本音で。 まだ何も知識がない。この言葉を初めて耳にする人も理解できるようなフォーラム。(段階をつくってはどうか) 実際に企業がどんなことをしているのか。苦勞、努力話。 環境にやさしい製品をつくるための裏話。 それぞれの研究成果等の発表。 購入の方法、業者の選び方、取り組み方、社員への伝達方法。 部門別に聞き、具体的な話を掘り下げた方がよい。

■ 滋賀ネットにどのような事業を希望していますか。

会 員	<ul style="list-style-type: none"> 使用後の回収、再利用。 同業種での部会。 メンバーがスクラムを組んで、強力な動きをおこすこと。 環境対応商品や廃棄物処理技術についての共同開発、情報交換の場づくり。
非 会 員	<ul style="list-style-type: none"> 地域のスーパーなどに入り込んでの活動。 いろいろな店にグリーン商品しかおかないように働きかける。 産業廃棄物の処理活動。 環境対応商品の売り場でのPR。

■ グリーン購入の普及促進のため、ご提案があればご記入願います。

会 員	<ul style="list-style-type: none"> 事務用品等についてのグリーン購入を実施している。目的、目標設定の例、達成度をどのように測定するのか。例を知りたい。 一般消費者が物を買うとき、どれがグリーン商品かわかりづらい。わかるようにしたい。 消費者にグリーン購入の大切さ・メリット(消費者本人にも、社会的にも)を知らせる。 優良企業等を表彰してあげてほしい。エコマネー等で。
非 会 員	<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオ、雑誌での宣伝。 グリーン商品と従来品とが同等の価格にならない限り、購入率の向上は困難であることから、価格を安価にすることが急務。 全国ネットでインターネットのデータベースが立ち上がったそうだが、一般市民の立場からすると、わざわざパソコンを開かなくても(グリーン商品が)すぐ見つけられるようにしたい。

☆アンケートにご協力いただいた皆様、貴重なご意見をありがとうございました。
今後の事業運営の参考にさせていただきたいと思っております。

報告

自治体のグリーン購入研究会 第4回研修会

自治体のグリーン購入研究会第4回研修会が2月25日に行われ、34名のご参加をいただきました。滋賀県出納局管理課の下村実氏より報告のあった、鹿児島県鹿屋市の「エコプロダクツ2001グリーン購入シンポジウム」発表事例を、簡単にご紹介します。

●鹿屋市の取り組み事例●

鹿屋市がグリーン購入に取り組み始めたのは、平成9年に北九州市で開催された「グリーン購入フォーラムin九州」に参加されたことがきっかけで、ちょうど市議会において「市役所で購入しているコピー用紙中に占める再生コピー用紙の割合について」の質問が出た時期であった。

GPNに加入後、コピー用紙や事務文具、作業服をグリーン商品に切り替えていく中で、出入り業者の方々とも色々な問題が生じたが、積極的に環境対応製品の情報を提供してくれた業者もあった。

「行政は地域最大の消費団体であるだけでなく、市民や企業の皆様にもグリーン購入を普及させるために情報を発信すべきである。」との姿勢で、広報誌による啓発や、市役所ロビー、市主催の催し物会場等においてのグリーン商品の展示を積極的に行っている。

また、小学校への間伐材製の机・椅子の導入、夏休み研究課題として「やってみようグリーン購入」(GPN作成)の利用、PTAを通じてのグリーン商品(文房具)購入アンケート調査なども計画している。



「研修会に参加して」

大津市 環境保全課 森岡 由起子

自治体のグリーン購入への取り組みについては特有の問題点があります。今年度研修会を経て各自治体がぶつかっている問題を見出してきました。来年度はその解決に向けて各々の自治体が互いに刺激し合い、一歩踏み出すことができたいと思います。

西日本電信電話(株)滋賀支店 企画部経営改善担当 中田 知己

今回、初めて研修会に参加させて頂き、感じたことは、多くの企業がグリーン購入を意識して取り組まれており、グリーン購入法の認知度についてもかなり高いことに、企業についてはかなり浸透してきているのだと感じました。今後も、グリーン購入についての意識などを高めてもらえる研修をお願い致します。



見つける 広がる 環境サイト

エコどこナビ

私たちの町で「エコな商品」や「エコなサービス」がすぐに見つかり買いに行くことができれば、とっても便利ですね。「環境にやさしい商品はどこで買えるの?」という皆様の声に元につくられたインターネット上の情報サイト「エコどこナビ」もうご覧になりましたか?

「エコどこナビ」では、ほしいと思うエコ商品を検索すると、売っているお店情報を地図つきで手に入れることができます。お店のエコ活動やおすすめ商品も一目瞭然。さらに、プレゼント情報までも検索できて、これからのIT時代にグリーンコンシューマーを目指す皆様にとって、きっと役立つサイトです。

お店を営む皆様には、もうこれは利用するしかありません。なにしろ無料で、お店の紹介をしてもらえるのですから。消費者が、今後ますます「環境」に目を向けていくのは必然です。「エコどこナビ」に登録すれば、お店のイメージアップ、集客力アップにつながります。

エコな商品、エコなサービスがひとつでもあれば登録OK! 今すぐ登録して、お店のエコ情報を発信!

★「エコどこナビ」の情報はグリーン購入ネットワーク(GPN)が提供しています。このサイトは、グリーン購入の普及啓発、グリーンコンシューマーの育成を目指しています。一般消費者のニーズにこたえて、自分の住む「まち」で環境に配慮した商品やサービスを取り扱い、消費者が購入できる「小売店」をインターネット経由で紹介していきます。これにより小売店は、環境に配慮した商品やサービスを更に取り扱い、双方向のグリーンなマーケットの発展へと導くのが当事業の目的です。

3月7日、機密書類処理方法研究会の研修としてダンボールの原紙として使われている再生紙「板紙」を製造されている大津板紙株式会社(大津市)を訪ねました。機密書類の処理に頭を悩ましておられる団体は多いようで、55人の会員参加をいただきました。

「地域と社会に貢献できる企業づくり」を社の方針のひとつに掲げておられる大津板紙では、早くから、原料をパルプから古紙に切り替え、同時にエネルギーの節約にも取り組んでこられました。

そして研究会のテーマ、機密書類。これもこちらに持ち込めば、なんと無料で、リサイクル処理をしていただけます。(要予約)ただし、機密保持の責任は、あくまでも持ち込み側。持ち込んだ側が機密保持についての責任を持ち、自らが持ち込み、リサイクルの現場を確認してから帰っていただく、大津板紙は場所を提供するだけというシステムです。持ち込むための運賃は自己負担になりますが、搬入後の処理費用は大津板紙の経費ということになります。

機密保持のためにシュレッダーで断裁する手間、焼却処理にかかる費用を考えたら、これは「おトク」かもしれません。その上、焼却処理した場合に発生するダイオキシン、二酸化炭素等を抑制することにもつながり、とにかくリサイクルすることによって貴重な資源を無駄にしないで済むわけです。

しかし、持ち込み側に機密保持の責任があるということは、リサイクルが終わるまで何時間も待つのはたいへんです。それに、本当に機密は守れるのでしょうか。そんな疑問を持ちながら、工場を見学させていただきました。

入ってすぐ、たくさんの古紙の山が目に入りました。その横でショベルカーが、古紙の塊を上向きのベルトコンベアーに乗せていました。上っていくベルトコンベアーの先には、巨大な壺のようなものがあり、古紙はその中へ順に落ちていきます。これが「パルパー」と呼ばれる溶解装置で、古紙をドロドロに溶かしてしまうそうです。

つまり、機密書類を持ち込んだ団体は自分の持ち込んだ書類が、この「パルパー」の中にすべて入ってしまうところまでを確認すれば良いわけです。

溶解された古紙は「原料処理工程」で、いくつもの「異物を取り除くための装置」を通り、繊維をほぐされて「液状古紙パルプ」になります。続いて「抄紙工程」。液状古紙パルプを広げ、大きな上下ローラーで加圧、水分を搾り出した後乾燥させ、いくつものローラーで均一の厚さに伸ばしていきます。重さや水分はコンピューター管理され、品質の一定化を図るとともに、機械内の温湿度や熱量等も一定に保ち、無駄なエネルギーを使わないように管理されています。できあがった再生紙は大きなローラーに巻き取られ、出荷されます。

持ち込んだ古紙がパルパーに入り切るまでの所要時間は、古紙15トンで約1時間だそうです。ダンボール箱に詰めて、できれば金具、テープ類は、はずしておいてほしいとのことでした。ダンボール箱は何でも良いのですが、ガムテープ不要の組み立て式のものが望ましく、大津板紙でも購入できるそうです。

大津板紙が2001年度に処理する見込みの機密書類の量は、年間で5000トンにもなるそうで、この数字は大阪ドーム25個分の森林を保護したことになるとか。パンフレットに記載された「『古紙』は都会の森林です」という言葉が心に残りました。

【お問い合わせ】大津板紙株式会社 TEL 077-522-4171



「研修会に参加して」

参天製薬(株)滋賀工場 管理チーム 田中 良子

以前にも、大津板紙さんのように資源となる紙を直接持ち込み、溶解槽への投入確認が出来る所があると聞いたことがありましたが、実際にこのような事をされている所を見学させて頂き、大変勉強になり良かったと思っています。直接搬入ができるということで機密性が保持されるので安心できて、しかも無償。弊社も是非検討したいと思います。環境に良いことは進めたいもの……。シュレッダーって時間もかかりますし、結構面倒なんです。その時間がかなり削減できそうです。

また、外国からダンボールを輸入し資源とされていることにも驚きました。輸入はアメリカからと言われていましたが、アメリカはリサイクルがすすんでないのでしょうか……。でも、バージン素材のダンボールも必要なんですね。



「グリーン購入に皆が感じる敷居を下げたい!!!」

滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル 代表 高畑 秀史



私の友達にこう言い放つ人がいます。「エコロジー文具って嫌いよ!だって偽善なかんじがするじゃん」目がさめたようなパンチを食らった感じが致しました。でもとても参考になるんですね。環境にやさしい商品への違和感・相容れない気持ちを抱いている人がまだまだいるのだな、と。私達の活躍の場はまだ有るのだな!と。

私は、グリーン購入を勧める上でこのような環境に関心がない方をどう巻き込んでいこうかととても大切なように思います。そのためには、環境の言葉に抱いているイメージを少しでもやわらかくして伝えることが必要に思いました。つまり、「市民語に訳すこと」だといえます。

今、私達のサークルではエコロジー文具の紹介冊子を作成しています。エコロジーに加えて、オシャレ・財布にやさしい・人にやさしい(ユニバーサルデザイン)の視点を加えて作成しています。少しでも多くの人に興味を持っていただくには・・・日々葛藤です。

(写真はある学校での配布風景です)

滋賀GPNも、これからますます地域ネットワークとして、会員同士のコミュニケーションが活発になると思います。グリーン購入を起点として、実のあるネットワークにしていきたいです。

今回は、平和堂 西塚さんをお願いしたいです。



最近の活動報告 2001年12月~2002年3月

- 2001. 12.10 ホームページのリニューアル
- 12.12~15 「エコプロダクツ2001」滋賀GPNパネル貸出し/トラヤ商事(株)(東京)
- 12.20 ニュースレター第2号の発行
- 2002. 1.24 建設リサイクル法に基づく滋賀県の実施に関する指針説明会に説明員として出席
- 1.25 入会案内DM発送(1)
- 2. 7 環境調和型企業活動推進セミナー「環境適合設計」協賛
- 2.15 入会案内DM発送(2)
- 2.18 滋賀県指名登録業者対象グリーン購入講演会に説明員として出席
- 2.22 第6回企画運営部会
- 2.25 自治体のグリーン購入研究会第4回研修会
- 3. 5 グリーン購入評価手法研究会第2回研究会
- 3. 7 機密書類処理方法研究会第2回研修会(大津板紙(株))
- 3.12 第8回幹事会
- 3.13 建設リサイクル法説明会(彦根会場)説明員として出席
- 3.15 「(大津会場)」
- 3.25 ニュースレター第3号の発行

「滋賀GPNニュース」(FAXリリース・メールマガジン)発行

・第34号 2002.1.11 ・第35号 2002.2.7 ・第36号 2002.2.27 ・第37号 2002.3.20

来年度の活動予定

- 1. 2002年度通常総会
- 2. グリーン購入キャンペーン
- 3. セミナーの開催
- 4. 地域イベントへの協賛・参加
- 5. グリーン購入フォーラム開催
- 6. 啓発資料の貸出
- 7. ニュースレターの発行
- 8. FAXリリース・メールマガジンの発行
- 9. ホームページ管理
- 10. 会員の拡大
- 11. 幹事会等の開催
- 12. 研究会の運営

詳細は5月に行われる通常総会にて決定されます。

2002年度は、より一層会員の皆様のお役に立てる事業を心がけて参ります。ご支援、ご協力を、よろしくお願い致します。



エコ情報室

滋賀エコじまん！「環境こだわり農産物」

県では、消費者ニーズに応えるため、また、琵琶湖をはじめとする環境を保全するために「環境こだわり農産物認証制度」を平成13年度からスタートしました。

この制度は、農薬・肥料の使用量を通常の5割以下に削減するとともに、濁水の流出防止など、琵琶湖・周辺環境への影響を少なくする技術で生産された農産物を県が「環境こだわり農産物」として認証する制度です。

認証された農産物には、県の認証マークを貼って出荷・販売されます。対象農産物は米、麦、大豆、野菜、果実、茶です。

環境こだわり農産物の購入が、琵琶湖の水質改善に結びつくものであることが消費者の皆さんに理解され、グリーン購入の取り組みが農産物の分野にも拡大していければと考えています。

たとえ農産物を外国から輸入することはできても、琵琶湖の周りに広がる豊かな田園環境を輸入することはできません。琵琶湖を大切に守っていく農業、それが滋賀の農業であり、環境こだわり農産物はそのシンボルです。

【お問い合わせ】

県庁農産流通課 TEL:077-528-3834 FAX:077-528-4882
<http://www.pref.shiga.jp/g/nosan/>



○農薬・化学肥料:通常の5割以下
○びわ湖・周辺環境への負荷削減

会員内訳

(2002年3月5日現在)

企業	非営利団体	行政	入会団体合計
276	31	55	362

新規入会会員

(2001年12月16日～2002年3月5日)

田中建材(株)、参天製薬(株)滋賀工場、夏原工業(株)、積水化学(株)滋賀栗東工場、(株)ダイニチ、滋賀東リカーペット(株)、東レ・ファインケミカル(株)、(株)ヒラカワガイダム、カネボウ繊維(株)、(株)竹田メッキ工業所、大洋厨房(株)、(有)イーマックス・サプライ、(有)総合防災ニシザワ、フジインファニット(株)、滋賀ビジネスマシン(株)、翼グループ(株)、日本黒鉛工業(株)、三協高圧(株)、(有)ふるき、(株)サンエルフ、京滋イセキ販売(株)、(有)富永園茶舗、東郷化成(株)、宮川印刷(株)、(株)京阪工技社、(株)テムス、しがぎんリース・キャピタル(株)、MAUグループ松井産業(株)、下川嘉右衛門商店、光洋(株)、(株)きよし、(株)新洲、竹澤商事(株)、(有)ツイキコーポレーション

事務局からのお知らせ

「FAXリリース」から「メルマガ」への切り換えはもうお済みですか？

FAXによる送信は紙面に限りがあるため、今後はメルマガの内容を、より充実したものにしていきたいと考えています。配信希望アドレスを事務局までeメールでお知らせ下さい。

本紙P5でご紹介している「エコどこナビ」に、あなたのお店情報を登録しませんか。

お問い合わせは、グリーン購入ネットワーク事務局「エコどこナビ」担当まで TEL:03-3406-5155
e-mail:ecodoco@net.email.ne.jp

編集・発行/滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

〒520-0044

滋賀県大津市京町三丁目4-22 滋賀会館1階
(社)滋賀県環境保全協会内

TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp

URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

印刷・デザイン/(株)プラスワン

